

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K13748

研究課題名（和文）地域銀行の再編と取引先中小企業に関する実証研究 再編手法の観点から

研究課題名（英文）Empirical studies on the effects of consolidation of regional banks on borrower firms

研究代表者

野島 栄莉子（内木栄莉子）（Naiki, Eriko）

同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員

研究者番号：50780350

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の主要な研究成果は、(1)金融機関の健全性が新規開業企業向け貸出に与える影響と(2)人的資本が新規開業企業の資金調達に与える影響について検証したことである。第一に、2008年の金融危機に焦点を当てた実証分析を行った結果、健全性の高い金融機関は2008年の金融危機時には新規開業企業への貸出に消極的であったことが明らかになった。第二に、起業家を「必要に迫られて起業した起業家」と「事業機会を追求するために起業した起業家」とに分類した分析を行った結果、高い水準の人的資本を持つ前者の起業家は、低い水準の人的資本しか持たない後者の起業家よりも資金調達の問題を持ちにくいことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

金融機関の健全性が新規開業企業向け貸出に与える影響に関する研究では、貸出を決定する要因のうち、企業側の要因を除くことによって金融機関側の要因のみを抽出しているという点で先行研究の課題を克服している。また、人的資本が新規開業企業の資金調達に与える影響に関する研究では、先行研究では別々に分析されていた起業の動機と新規開業企業の資金調達が同時に考慮しながら検証している。さらに、両者の分析はともに、すべての企業のなかでも最も資金需要が高いにもかかわらず深刻な資金制約に直面している新規開業企業の資金調達を容易にするための知見を得ることができるという点で社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：We examine the effects of the soundness of financial institutions on bank lending to new firms while focusing on such effects during the 2008 financial crisis. Our results suggest that sounder financial institutions were less likely to provide loans to new firms during the 2008 financial crisis. Furthermore, we investigate the effects of human capital on fundraising problems for necessity- and opportunity-based entrepreneurs by using a survey of new firms in Japan. We find that necessity-based entrepreneurs with high levels of human capital are less likely to have fundraising problems than opportunity-based entrepreneurs without such human capital.

研究分野：金融論

キーワード：金融機関 健全性 新規開業企業 資金調達

1. 研究開始当初の背景

銀行の経営再編に関する研究では、経営再編が当該銀行および取引先企業に与えた影響について、数多くの分析が行われている。なかでも、取引先企業に関する研究では、銀行再編は、銀行と企業の取引関係や資金アベイラビリティ、貸出条件に影響を与えることが明らかになっている (Degryse et al. (Review of Financial Studies 24, 2011)、Fraisie et al. (Journal of Banking & Finance 93, 2018))。しかし、これらの先行研究は、(1)銀行貸出を決定する銀行側の要因と企業側の要因の識別といった欠落変数バイアスへの対処、(2)再編方式の相違 (合併もしくは金融持ち株会社設立) の考慮、という解決すべき課題が残されていた。銀行の経営再編が貸出を行っている企業への影響を明らかにするためには、これらの課題を克服する必要がある。

また、再編を行った銀行から融資を受けている企業の業績に与える影響について直接的に分析した実証研究は、データの制約や欠落変数バイアスへの対処が困難なため、ほとんど行われていない (Delis et al. (Review of Finance 21, 2017))。近年、いくつかの先行研究がこのような影響について分析を行っている (Delis et al. (Review of Finance 21, 2017)、Fraisie et al. (Journal of Banking & Finance 93, 2018)、Montgomery and Takahashi (Japanese Economic Review 69, 2018))。ただし、これらの研究は、データの制約から、大手銀行や上場企業を分析対象としている。しかし、近年、活発化している地域銀行の再編が取引先企業に与える影響を明らかにするためには、地域銀行の主要取引先である中小企業に焦点を当てた分析を行う必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の地域銀行と非上場の中小企業を対象に、地域銀行の再編が取引先企業の貸出と業績に与える影響を明らかにすることである。分析にあたり、「1. 研究開始当初の背景」で述べた先行研究における課題を克服するために、(1)欠落変数バイアスに対処し、(2)再編手法の違い、すなわち、合併と金融持ち株会社設立による経営統合の違いを考慮する。

この目的を達成することにより、銀行再編の実物面への影響を解明するという点からの先行研究への貢献に加えて、近年、再編が活発化している地域銀行の経営や、地域銀行の主要な取引先である地元中小企業を中心とした地域経済の活性化に向けた知見を得ることが期待される。

3. 研究の方法

上記2で述べた研究の目的を達成すべく、(1)企業に貸出を行っている金融機関側に焦点を当てた研究と(2)金融機関から融資を受けている企業側に焦点を当てた研究を行った。具体的には、(1)の研究として、新規開業企業向け貸出に与える影響を分析した。さらに、(2)の研究として、企業の現金保有に与える影響、起業家の人的資本が新規開業企業の資金調達に与える影響、について検証した。

(1)企業に貸出を行っている金融機関側に焦点を当てた研究

新規開業企業向け貸出に与える影響に関する研究

先行研究の課題である欠落変数バイアスに対処し、貸出を決定する要因のうち金融機関の資金供給に対する影響のみを抽出するために、Khawaja and Mian (American Economic Review 98, 2008)において使用されている「金融機関・企業・年」の3次元パネルデータを使用した分析を行う。具体的には、新規開業企業のデータとその企業に貸出を行っている金融機関のデータをマッチングさせてパネルデータを構築し、そのデータを使用して Three-way fixed effects 推定を行った。なお、金融機関の合併とその健全性には密接な関連があると考えられるので、取引金融機関の経営再編だけでなく、金融機関の健全性に注目した分析も行う。

(2)金融機関から融資を受けている企業側に焦点を当てた研究

企業の現金保有に与える影響に関する研究

企業の財務データと各金融機関からの借入残高およびメインバンクの財務データをマッチングさせたデータを使用し、固定効果推定を行った。さらに、金融機関の合併が企業に与える影響について、その実態をより直接的に把握するために、企業を対象としたアンケートを実施した。

起業家の人的資本が新規開業企業の資金調達に与える影響に関する研究

日本政策金融公庫総合研究所「新規開業実態調査」を利用し、起業家が資金調達の悩みを持っているか否かを示すダミー変数を従属変数としたプロビット推定を行った。

4. 研究成果

(1) 企業に貸出を行っている金融機関側に焦点を当てた研究

新規開業企業向け貸出に与える影響に関する研究

分析により得られた主な結果は以下の4点である。第一に、健全性の高い金融機関は、新規開業企業への貸出に消極的であり、特に海外に営業拠点を持つ金融機関において顕著だった。第二に、2008年の金融危機時には、健全性の高い金融機関ほど新規開業企業に対する貸出に消極的だった。第三に、2008年の金融危機時には、他の時期と比べて、すべての金融機関において新規開業企業に対する貸出に消極的だった。第四に、金融危機時における貸出は、健全性の高い金融機関の方が継続されやすい。

本研究は、貸出を決定する要因のうち、企業側の借入需要要因を取り除くことによって金融機関側の貸出供給要因のみを抽出しているという点で先行研究の課題を克服している。さらに、新規開業企業はすべての企業のなかでも最も資金需要が高いにもかかわらず深刻な資金制約に直面していること、銀行貸出に強く依存していることを踏まえると、本研究の成果は新規開業企業の資金調達を容易にするためのインプリケーションを示唆している。

上記の分析結果をまとめた論文は、第13回地域金融コンファランス（長野県立大学）にて報告を行った。学会報告におけるコメントに基づき改訂した論文は、海外の査読付き学術誌 *Review of Financial Economics* への掲載に至った (Naiki and Ogane 2020)。また、政策科学研究所講演会（愛知学院大学）にて、本論文の研究成果に基づく講演を行った。

(2) 金融機関から融資を受けている企業側に焦点を当てた研究

企業の現金保有に与える影響に関する研究

分析により得られた主な結果は以下の3点である。第一に、2008年の金融危機時に、企業のメインバンクの毀損がその企業の現金保有を増加させる。第二に、第一に明らかになった傾向は、銀行借り入れ以外の資金調達先に関りがある企業もしくはメインバンクとのリレーションシップが不安定な企業で顕著だった。第三に、2008年の金融危機時に、メインバンク以外の取引銀行の毀損が企業の現金保有を増加させるという結果は観察されなかった。

本研究は、先行研究では明らかになっていない2008年の金融危機時における現金保有が異常に増加した原因について明らかにできたという点で、先行研究に貢献している。具体的には、2008年の金融危機時に発生した銀行の毀損がこの時期の現金保有の増加に関わっている可能性があるという先行研究の示唆を実証的に検証した。

上記の分析結果をまとめた論文は、現在、海外の査読付き学術誌への掲載を目指して投稿中である。また、企業を対象に実施したアンケートについては、現在、集計を進めており、集計結果は日本語論文として公表予定である。

起業家の人的資本が新規開業企業の資金調達に与える影響に関する研究

本研究では銀行合併が新規開業企業の資金調達に与える影響は明らかにできなかったが、他の点について興味深い結果を得た。具体的には、起業家を「必要に迫られて起業した起業家」と「事業機会を追求するために起業した起業家」とに分類した分析を行うことによって、以下の3点が明らかになった。第一に、必要に迫られて起業した起業家は、事業機会を追求するために起業した起業家よりも資金調達の問題を持つ確率が高い。第二に、人的資本のうち、現在の事業に関連する仕事の経験が両タイプの起業家の資金調達の問題を改善する。第三に、現在の事業に関連する仕事の経験のある必要に迫られて起業した起業家は、人的資本の水準が低い事業機会を追求するために起業した起業家よりも、資金調達の問題を持つ確率が低い。

本研究は、先行研究では別々に分析されていた起業の動機に基づく起業家のタイプによる違いと新規開業企業の資金調度を同時に考慮しながら検証している。さらに、資金調度を容易にするためには高い水準の人的資本が有効であるという分析結果は、潜在的な起業家が資金調度を成功させるために必要な要素を示唆している。

上記の分析結果をまとめた論文は、海外の査読付き学術誌 *Small Business Economics* (Naiki and Ogane 2022) への掲載に至った。

(3) その他の研究

上記(1)と(2)以外に、金融機関の健全性が中小企業とのリレーションシップ構築に与える影響、雇用慣行が起業に与える影響について分析し、その結果を論文としてまとめた。なかでも、に関する論文は、査読付き学術誌 *Journal of the Japanese and International Economies* への掲載に至った (Naiki and Ogane 2021)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Eriko Naiki and Yuta Ogane	4. 巻 -
2. 論文標題 Human capital effects on fundraising for necessity- and opportunity-based entrepreneurs	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Small Business Economics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11187-021-00596-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Eriko Naiki and Yuta Ogane	4. 巻 60
2. 論文標題 Are Japanese Full-time Workers Conservative in Starting New Businesses?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jjie.2021.101133	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Eriko Naiki and Yuta Ogane	4. 巻 38
2. 論文標題 Bank soundness and bank lending to new firms during the global financial crisis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Review of Financial Economics	6. 最初と最後の頁 513～541
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/rfe.1090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 内木栄莉子
2. 発表標題 Bank soundness and bank lending to new firms during the global financial crisis
3. 学会等名 第13回地域金融コンファランス（長野県立大学）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------